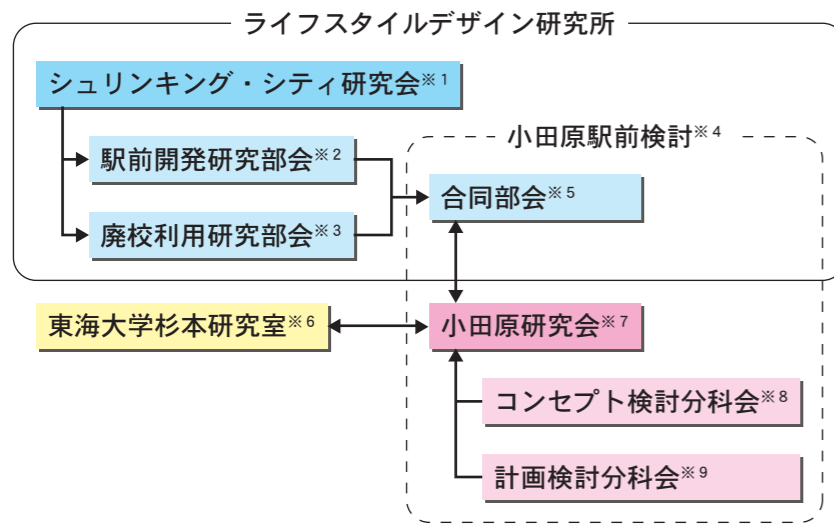


シュリンク・シティ研究会の組織構成等



- ※1：人口減少などによる逆都市化についての研究体
 ※2：逆都市化の中で、駅前を中心とした中心市街地の再生をテーマとした研究体
 ※3：逆都市化における小中学校を中心とした廃校利用をテーマとした研究体
 ※4：「駅前開発研究部会」の研究のケーススタディとして小田原を抽出し検討
 ※5：小田原駅周辺の高校の廃校利用検討も踏まえ二つの部会で小田原を研究
 ※6：小田原に詳しい建築家杉本洋文教授の研究室、㈱計画・環境建築の代表
 ※7：杉本教授及び杉本研究室の大学院生とのコラボレーションによる小田原研究
 ※8：小田原研究におけるコンセプト検討を行うワーキンググループ
 ※9：小田原研究における計画検討を行うワーキンググループ

□小田原研究会メンバー（敬称略・順不同）

所属		～2010.3	2010.4～
東京事務所	設計部	村松弘治（部長）	
		山野信彦	
		潮上大輔	
		池田知余子	加藤裕
		藤井裕子	岩谷政春
		新井匠	南雲晃央
	設計部⇒企画部	岩間浩二	
		吉田正行	
		幡宮祥平	
		柏原孝治（部長）	
		須藤裕行	
		山本智	
		高桑雅史	
情報プレゼンテーション部	上田至一		
	坂倉忠洋		
	本梅誠		
	都市デザイン部	杉本洋文	
		瀬谷匠	
親松直輝			
篠原佑典			
井手美祐紀			
名古屋事務所	企画部	本梅誠	
東海大学	教授	杉本洋文	
	杉本研究室大学院生	瀬谷匠	

所員のライフスタイルの例

40代男性の場合

（過去）

- ・京都府Y市で教師の次男として生まれた。兄弟は兄一人。高校まで自宅から通った。

（現在）

- ・妻と娘（小学生）との3人暮らし。
- ・妻の実家近くの都心のマンションに住んでいる。
- ・現在、保育園の繋がりから、地域で子供を育てようとコミュニティ活動中である。

（将来）

- ・20～30年後には、シニア海外ボランティア等の派遣により外国で暮らしていると思う。
- ・父親は分家だが、本家は自分が継ぐことになっている。今の家は売っているか、娘が住んでいる。
- ・今の自宅周辺は、坂が多いのでコミュニティバスが発達していると思う。
- ・また、女性進出が今以上にあり、その支援施設が求められているはずである。

30代男性の場合

（過去）

- ・千葉県M市出身で、一人っ子。
- ・就職するまで自宅から通学した。幼稚園時代が人生のピークだったと感じている。

（現在）

- ・妻と娘、息子との4人暮らし。
- ・実家の近くのK市に二戸建て（2LDK×2戸）の住宅を建てて住んでいる（一戸は貸家）。外構は自分で作っている。
- ・両親は、M市の実家を売り払い、地方で仕事をしている。

（将来）

- ・20～30年後は、別荘作家になっている。
- ・自分は、海の近くに居住しており、今の家は売り払っているか、子供たちに譲っている。
- ・妻の実家は、妻の姉妹が住む。
- ・田舎でも環境が整っている魅力あるところは住みやすいのではないかと考えている。

30代男性の場合

（過去）

- ・秋田県I町（人口約5,000人）で二人兄弟の次男として生まれた。
- ・実家は、千年以上続く八幡神社で、父は教師兼神主。
- ・高校まで実家から通っていた。

（現在）

- ・独身。神職の資格を持っている。
- ・実家の神社は兄が継いでいる。
- ・趣味は美術館やギャラリーめぐりで、年間50回程度行っている。
- ・神主は自分のルーツだという意識が強く、一度は神主をしたいと思っている。婿養子として神主を継ぐ方法はあると思っている。

（将来）

- ・20～30年後も今の仕事を続けていると思う。
- ・居住地は動き回っているかもしれないが、東京に永住するという実感はない。根っこは秋田県だと思っている。
- ・通信技術が発達すると、行政サービスや公共交通、周辺のお店などの距離感は希薄になってくるのではないかと考えている。

RESEARCH ACTIVITIES

Apr.2010

Vol.2

ライフスタイルデザイン研究所の活動状況

- ・ライフスタイルデザイン研究所において、現在「シュリンク・シティ（縮小する都市）研究会」を立ち上げて活動を行っているのは既報の通りです。
- ・「シュリンク・シティ研究会」では、ある地区の小中学校跡地をケーススタディ対象とする「廃校利用研究部会」と、小田原駅前をケーススタディ対象とする「駅前開発研究部会」を立ち上げて継続的に研究を行っています。
- ・現在の主な活動状況としては、「駅前開発研究部会」については、東海大学建築学科の杉本研究室とのコラボレーションにより、小田原駅前や商店街の将来のあり方を検討しています。なお、小田原駅周辺地区には廃校となった高校があり、その利用について「廃校利用研究部会」が検討することとしており、「駅前開発研究部会」と合わせて小田原についての合同研究を行っています。



株式会社 安井建築設計事務所
 ライフスタイルデザイン研究所

小田原研究会のこれまでの議論

1. 計画コンセプト・方針について

(1) 小田原の現状

- ⇒人口減少
- ⇒虫食い状態の駐車場の増加
- ⇒商店街の衰退
- ⇒若者が遊べる場所がない
- ⇒美術館やバンケット機能がない など

(2) 現在の小田原に求められること

- ⇒中心市街地の再生
- ⇒シュリンク時代は量より質
- ⇒歴史や土地の記憶を感じさせるまちづくり
(小田原城の堀の再生方針を前提として検討する)
- ⇒魅力があり生活を楽しめるまちづくり
- ⇒コミュニティのある持続可能なまちなか居住
- ⇒賑わいがあり都市空間を豊かにする都市デザイン など

(3) 現在の小田原に求められること

- ⇒小田原らしいサードプレイスづくり
- ⇒小田原のライフスタイルセンターづくり
(小田原で考えられるものとして、ストリート型、街区再生型、拠点型の3タイプについて、地区を想定して検討する)

2. 計画内容について

(1) 導入機能

- ⇒街中に住んでいる人たち、あるいは住んでほしい人たちのための機能や空間の抽出
- ⇒ストリート型、街区再生型、拠点型、それぞれの役割の明確化

(2) 施設構成

- ⇒1階に商業や広場空間、2階以上に住宅を配置する
- ⇒各店舗の出入口は通りや広場にある

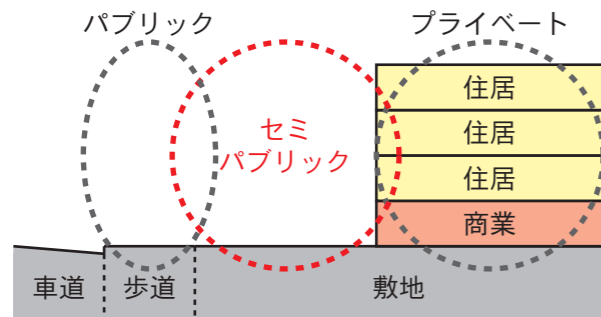
(3) 施設形態

- ⇒代官山ヒルサイドテラスの小田原版
- ⇒仲見世型の土地利用
- ⇒生活者のための路地や空地のある土地利用
- ⇒低層(4~5層程度)

(4) 外部空間

①空地・広場のあり方について

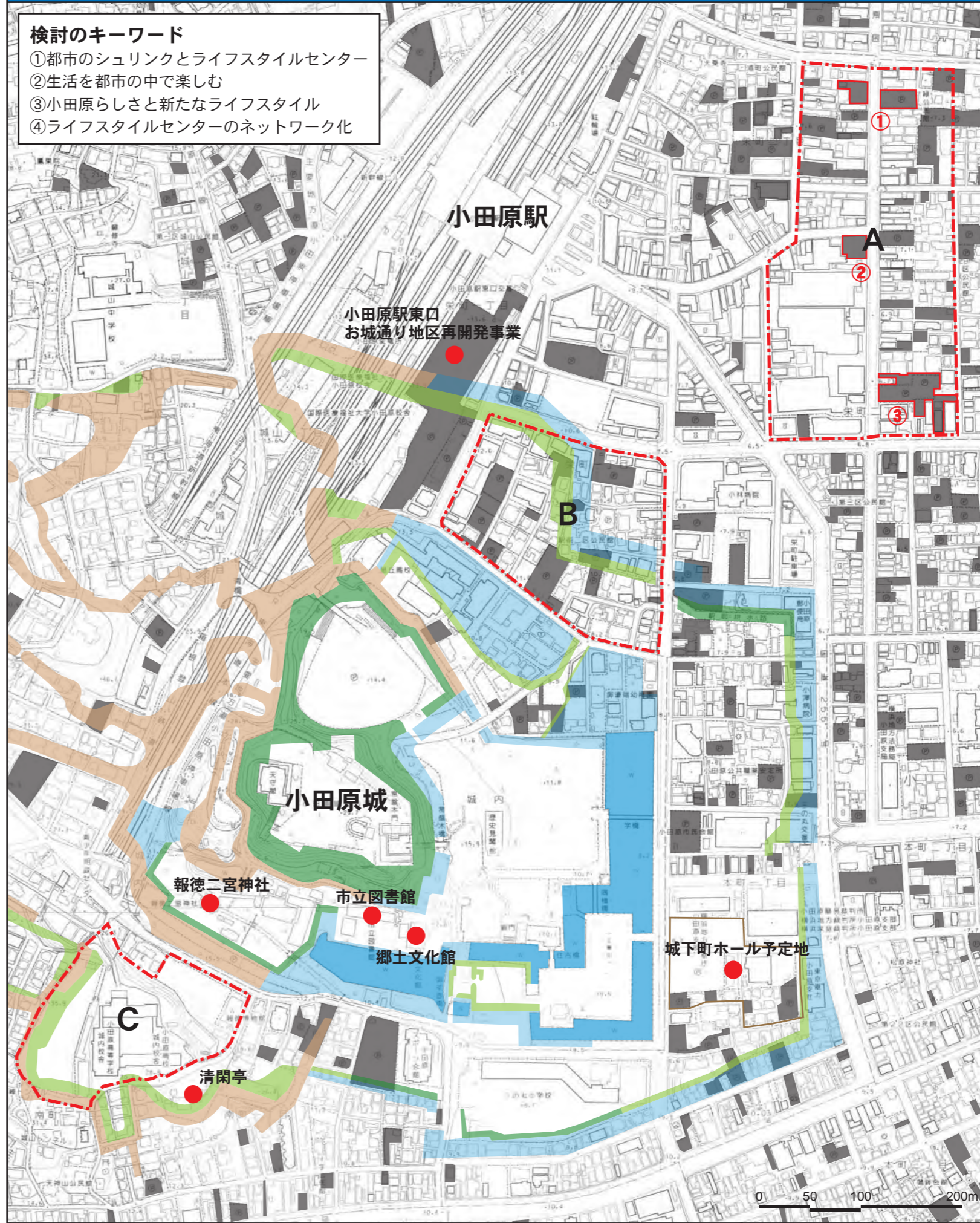
- ⇒土地の記憶(お堀や水路)などを感じさせる空間づくり
- ⇒商業・住宅と一体となった空地や広場の整備
- ⇒空地や広場の路地によるネットワーク化
- ⇒セミパブリック空間(サードプレイス)の充実



②自動車の扱いについて

- ⇒駐車場の工夫(集約化と分散化の組み合わせ)
- ⇒サービス車両(バックヤード)の集約化
- ⇒建物と駐車場の近接化(店舗前に駐車スペースは必要)
- ⇒自動車を排除しない歩車が共存するまちづくり

小田原研究会 検討方針(中間まとめ)



検討のキーワード

- ①都市のシュリンクとライフスタイルセンター
- ②生活を都市の中で楽しむ
- ③小田原らしさと新たなライフスタイル
- ④ライフスタイルセンターのネットワーク化

A ストリート型ライフスタイルセンター

- 道路をはさんだ建物の連続性の確保(①)
- 敷地内空地と道路との一体性の確保(②)
- 仲見世の創出による溜まり・路地空間の整備(③)
- 歩車共存の工夫
- メインストリートプログラムの活用

B 街区再生型ライフスタイルセンター

- お堀を感じさせる空間づくりの検討(小田原城整備計画との連携)
- 駐車場など自動車空間の工夫の検討
- 導入機能の検討(バンケット機能など)
- セミパブリックスペース(サードプレイス)の充実
- 都市デザインの詳細検討
- 都市計画、事業手法など制度のデザインの検討
- 小田原城を意識した景観軸の形成への配慮

C 拠点型ライフスタイルセンター(小田原城内高校廃校利用)

- 研修施設と大学のサテライトキャンパスの導入検討
- 高校の研修施設への転用の事例研究(八王子市高尾の森わくわくビレッジなど)

留意事項

- ・小田原城整備計画において、市立図書館・郷土文化館は城内から移転すべき施設とされている。また、B地区南の堀を将来的に再生する方針。
- ・報徳二宮神社は中心市街地唯一のバンケット機能あり。
- ・清閑亭(旧華族別邸)は活用の方向性を検討中。

凡例

- 敷地範囲
 - 駐車場
 - 水堀(現存)
 - 土塁・傾斜地(現存)
 - 水堀(現存せず)
 - 空堀(現存せず)
 - 土塁・傾斜地(現存せず)
- 堀・土塁は江戸時代末期の位置